

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270500810		
法人名	株式会社 桔梗グループ		
事業所名	グループホーム ききょう苑		
所在地	千葉県千葉市緑区あすみが丘8-6-1		
自己評価作成日	令和2年 2月27日	評価結果市町村受理日	令和2年7月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「地域に根ざした真心とおもてなしの介護」を理念とし、利用者の皆様やご家族様、ご来苑される皆様にも、気軽に越し頂き気持ち良く過ごして頂ける様、心のこもったお手伝いや接客を心掛けています。利用者の皆様は、お元気に楽しく毎日を送れます様、ご家族様には、安心してご家族様をお任せ頂ける様な苑を目指し、職員一同頑張っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR土気駅から徒歩20分弱の、公園、スーパー、コミュニティセンターにも近い閑静で環境に恵まれた住宅地に、グループホーム専用にて建てられた2階建ての施設です。高齢者向けに必要な諸設備が整い、居室、共用部分共に余裕のある作りで、明るく清潔感があります。
職員一同常に「おもてなし」の心を大事にしたケアに努めており、利用者本位のサービス提供を実現しています。
協力病院とは、同院の納涼祭に出かけるほど親密な関係を築いており、週2回勤務する看護師の職員との連携により、利用者の健康管理体制を整えており、希望があれば、最期の看取りまで行うので、安心して任せられる施設です。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602		
訪問調査日	令和2年 5月29日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根ざした真心とおもてなしの介護」を理念に揚げ、各ユニット毎に常に職員の目の届く所に掲示し、申し送りやミーティング時に唱和する様に心掛けています	グループホームが目指すべきことを簡潔にまとめた分かり易い理念であるため、誰もが共有し、日頃の介護そのものが、理念の実践となっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティア(歌・楽器演奏等)の受け入れや、地域の民生員の運営推進会議への参加や地域交流に努めています	協力病院の納涼祭には年間行事の一環として参加したり音楽鑑賞に出かけています。ボランティアとして、フラダンスや楽器演奏・歌等を受け入れており、利用者も一緒に歌って楽しむ等交流が進んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩に出掛けた際には、なるべく近隣の方々とのコミュニケーションをとるなど、関係を維持できる様に心掛けています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年4回の運営推進会を開催して、他のGHや民生員・地域包括支援センターに外部の情報提供して頂き、それを参考に以後の支援・サービス向上に活かしています	会議は、利用者・家族に加え地域包括支援センター、民生委員、他のグループホーム職員の参加を得て、年4回開催し、災害対策や感染症対策等その時々課題について、有意義な意見交換を行っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	多くの関連機関と関わりを持ち、地域の支援センターや民生員の方に運営推進会議に参加して頂き、その他支援課の方とは生活保護の利用者様の件で協力を得ています	千葉市という大都市であるため、担当者と直接親しく話し合う機会はありませんが、地域包括支援センター職員が運営推進会議に出席してくれるので、施設の実情を詳しく伝えると共に、適切なアドバイスを受けています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1回は社外研修に参加できる様に職員の知識を高めて、身体拘束をしない介護に努めています	具体的な行為を含めた詳細にわたる「身体拘束等適正化のための指針」定め、身体拘束等適正化委員会を規定通り年4回開催し、職員へも周知徹底を図っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回は社外研修に参加できる様に職員の知識を高めて、職員同士の話し合いを密にして、風通しを良くしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は少ないですが、機会があれば参加をしたいと思います。ご家族様の状況や考えもありますが、ご家族様の意向を考慮しながら良い支援を行っています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時には、ご家族様のお話を聞いた上で、ご納得頂ける様に、改定時には直接お話しができる様に、お会い出来ない時にも、ご納得頂ける様に説明しています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様にはご意見やご要望を伝えやすい環境作りを、ご家族様にはいつでも来苑して頂き、必ず声掛けをし、気軽に話せる環境作りをしています	運営推進会議に出席する利用者も有りますが、まずは日頃のケアの中でくみ取るようにし、家族については、多様な目的での来訪時や電話での連絡時に、考えを引き出すようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者には随時、職員からの意見や提案を聞くように、全体的な件はフロア会議で全体的で、金銭的な大きな件は社長を交えた食事会で対応しています	従来は施設の外回りの清掃を職員が行っていましたが、職員が本来のケアに集中できるよう、業者に頼むようにした等、費用のかかる事でも必要であれば、職員の意見を積極的に取り入れるようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の働き方や希望休等を考慮し、働きやすい環境作りを心掛け、役職や業務内容・資格取得による成果や改善手当等、報酬も行っています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の勤続年数や力量を考慮しながら、個々にあった研修を推奨しています。なるべく外部研修に参加できる様なシフト作り、費用や交通面での負担をしています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員全員がなるべく外部研修に参加したり、外部との交流を図り、知識やサブス向上に努める様に、その他にも運営推進会議に参加して頂いたり、当方からも参加したり、他の施設の良い所を取り入れるようにしています		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様からの情報を聞き、安心して話せる関係を築けるように、利用者様に寄り添い会話が出来るように、理解できる様に、以前と変わらない生活が提供できる様に努めています			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様には話しやすい場所にて安心して悩みや不安を話せる真摯な対応を心掛け、色々の悩みにお応えできる様に看護師や他の職員も同席して、お話を聞くようにしています			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様やご家族様の話し合いの際に、ご家族様の要望や利用者様の意向を理解した上で、当方の支援に限らず一番良い選択が出来る様、ご提案しています			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様を家族の様に接し、こちらから一方的に押し付けるのではなく、話し合いながら行っています			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は利用者様がやってあげたい事を、出来るだけご家族様と連絡を密に取り合い、叶える様にしています			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様は勿論、知り合いの方が来苑し易い様面会時間に制限は無く、いつでも気軽に訪れる事が出来るので、以前の生活や知り合いの方との関係が送れる様に支援しています	家族や知人が訪れやすい雰囲気作りを心がけており、面会時には利用者様の日々の様子を伝えていきます。散歩の途中で馴染みの店に立ち寄るなど、これまでの関係継続に努めています		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者様の性格を理解してテーブルの席を変えたり、職員が間に入りスムーズに会話ができる様にしています			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退居をされた利用者様やご家族様とも何かあれば連絡を取り合える様な関係を、ご入居時から築く様にしています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者様と会話をし、何を思い希望しているか些細な事まで耳を傾けるようにしています。利用者様それぞれの希望や思いは違いますが出来る限りの対応を心掛けています	利用者の日々の様子や会話から思いをくみ取り、外食や外出などできるだけ意向に沿うよう努めています。利用者がそわそわしていることに気づいた場合、トイレに誘導することで落ち着きを取り戻すこともあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や協力関係などから今迄の様子をお聞きし、ご入居時に出来る限り情報は職員で共有できる様、個人ファイルに管理していつでも見られる様にしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の出来事やレクリエーション等の能力はケース記録や介護日誌にて把握、バイタルチェックや排便記録にて日々の健康や心理状態を把握する様にしています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に利用者様の変化に応じた支援ができる様、必要に応じて会議を行う様にしています。多くの職員やご家族様の要望を踏まえ納得のいく良い介護計画をご提供しています	入居前の面接でアセスメントを行い、カンファレンスで情報を共有するとともに暫定の介護計画を立て、入居後1ヶ月の利用者の様子を見て正式な計画を作成しています。また6ヶ月ごとにモニタリングを行い、変化があればその都度計画を見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケース記録にて時系列に記入して、必要があれば利用者様との会話も記入する様に、職員全員で共有する様にしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズや対応については、その都度直ぐに対応できるようにしています。直ぐに判断できない事は職員全員で話し合い、ご要望に副う支援ができる様に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの能力を把握し、本人が自身の能力を発揮でき安全・安心できる暮らしを支援する様心掛けています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	どの医療機関を利用するかは、ご家族様の意向を尊重し、健康管理は訪問診療ができる体制をとっています	医療機関は本人・家族が選べますが、約7割の利用者は提携医の訪問診療を受けています。急変時には家族への連絡とともに医療機関に状況を伝えて指示を仰ぐ体制ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回正看護師が勤務し、介護での気付きや心配事を常に報告・相談する等協力体制をとっています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された場合、ご家族様の心配をなるべく軽減できる様、職員が医療機関と連絡を取り、医師・相談員等との信頼関係作りを努め、相談しやすい状況に努めています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明で重度化した場合における対応に係る指針を書面にて説明・理解を得ています。ご家族様の意向に副った支援を心掛け、変化に伴い早目に相談しています。看取りを希望されるご家族様には医療機関を選択できる様にしています	入居時に本人・家族に「重度化した場合における対応に係る指針」を示し、意向を確認して同意を得ています。終末期に入り看取り希望があった場合には協力医療機関と連携し、納得のいく最期を迎えられるよう話し合いを重ねて方針を決めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを掲示し、慌てず対応できる様常に話し合い努力しています。マニュアルも必要に応じ見直しをする様にしています。講習を受ける事で実践力を身に付けています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練では、色々な場面を設定して行い、その中1回は消防機関に協力を得て消火器の取り扱い等の訓練も行っています。災害用の備蓄・近隣の協力も得られる様交流を図っています	夜間想定を含め年2回自主防火・避難訓練を行っています。スプリンクラー等の防火設備は完備しており、近くに社長の自宅があるので、緊急時の応援、災害時の備蓄品の支援等が得やすい状況にあります。	近年様々な大規模災害が起きるようになってきました。災害弱者を抱えるだけに、様々な事態を想定した避難の方法の検討、備蓄品の数量・内容の見直しが常に求められます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を尊敬し、目上としての気持ちを忘れずに話し方、声掛けをしています。それぞれの人格を尊重しています	個人ファイルなどの個人情報は事務所の鍵のかかる棚に保管しています。利用者への声かけは親しみの中にも敬意を払う事を忘れないよう職員を指導しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員からは、利用者様が決定したい様に声掛けをしています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の皆様が同じ事をするのではなく、自由に過ごして貰える様に支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えをする時、出掛ける時など自信で選択できる様、声掛け、洋服・アクセサリなど選んで貰うようにしています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	庭でとれた野菜などをおかずに入れたり、下ごしらえや片付けなども一緒に行っています	ひな祭りやクリスマスなどのイベント時には季節を感じるメニューで食の楽しみを演出しています。また利用者に人気のカレーを月に1回提供するなど、利用者の意見を尊重している様子が窺えます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日分の水分、食事量を記録し、不足している時は不足分を補うようにしています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方にあった口腔ケアで支援をしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを記録し、その方に合った(自立)に向けた介助を細かくミーティングしています	一人ひとりの排泄のペースを把握して個々に声をかけたり、トイレに誘導しています。利用者の様子を観察し、落ち着かない様子を見て誘導するなどできるだけトイレで排泄できるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べ物や水分摂取で自力排便ができる様支援していますが、それでも困難な場合は薬で細かくコントロールしています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本、曜日や時間は決めているが、体調や利用者様の気持ちに合わせ変更しています	週3回のペースで入浴していますが、利用者の意向に柔軟に対応しており、毎日入る人もいます。ほとんどの人は入浴を楽しみにしていますが、拒否のある人には声かけを工夫して入浴できるよう促しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に良眠できる様、日中の過ごし方を工夫しています(レクリエーションや外出など) 日中は椅子で過ごす事が多い為昼寝をする時間を設け、足の浮腫みを予防しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報書は職員が誰でも把握できる様まとめ、誤薬を防ぐ為職員同士で確認をしています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を参考にして、本人の価値観を大切にしています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々のADLを把握し、天気の良い日は散歩・外食など時間の許す限り、支援をする様にしています	天気の良い日にはできるだけ散歩に出かけて外気に触れています。年間では初詣や季節の花見・いちご狩りなどの計画を立てて外出しています。また介護計画の中に外出を位置付けています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様・ご家族様の了解を得てお金を所持、買い物時は利用者様ご自身で支払いができる様支援をしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は必要に応じて、いつでも利用可能とし、手紙などは手伝いながらご自身で書いて頂いています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保ち、掃除や整理整頓は毎日行っています。安全面に配慮した生活空間を作るよう努め、皆で作成した物を飾ったりしています	築14年になりますが、専用に新築された建物であるので、共用空間も余裕のある作りで、清潔感があります。トイレや洗面所の清潔に心掛け、テーブルの上に置かれた季節の花、利用者と一緒に作成した壁面の飾り等で季節感を演出し、日中のほとんどを過ごす居間の周りでの毎日の家事で生活感も十分です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	不満がない様それぞれの要望を聞き、配置を変えたり座る場所を変える等工夫しています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で過ごしていた時の家具など自身が慣れ親しんだ物を置いたり飾ったり、安全面を考慮配置をするようにしています	居室にはエアコン、クローゼット、カーテンが備え付けです。ベッドや布団等は、なるべく自宅で使用していたものを使えるようにしており、各室ともそれぞれの好みに合った部屋作りが行われています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活空間に歩行した時危険になる様な物を置かない、飾らないよう配慮しています。トイレや居室等の区別がつく様、扉にプレートを貼ったりしています		